

■京浜盃 (JpnII) アラカルト (過去全 46 回の分析)

※第 25 回 (平成 14 年) から第 26 回 (平成 15 年) までは 1,690m で実施

※第 31 回 (平成 20 年) から第 46 回 (令和 5 年) までは SII として実施

※記録は令和 6 年 3 月 6 日時点

■上位人気馬が強い

単勝 1 番人気馬は 20 勝、2 着 8 回、3 着 2 回で、3 着内率が 65.2%、単勝 2 番人気馬は 10 勝、2 着 8 回、3 着 7 回で、3 着内率が 54.3%、単勝 3 番人気馬は 10 勝、2 着 9 回、3 着 4 回で、3 着内率が 50.0%となっている。単勝 1 番人気馬をはじめとする上位人気馬がそれなりに信頼できるレースと言えそうだ。

■9 割近くの回で 3 番人気以内の馬が勝利

過去 46 回のうち 40 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 20 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 5 回ある。

■優勝馬の大半は大井勢と船橋勢

所属別の勝利数を見ると、浦和が 2 勝、船橋が 19 勝、大井が 21 勝、川崎が 4 勝となっている。船橋と大井で全体の 9 割近くを占めている計算だ。

■牝馬は 4 勝、外国産馬は 1 勝

牝馬の優勝例は第 4 回 (昭和 56 年) のコーナンルビー、第 12 回 (平成元年) のロジータ、第 15 回 (平成 4 年) のカシワズプリンセス、第 34 回 (平成 23 年) のクラーベセクレタと、4 例ある。なお、外国産馬の優勝例は第 28 回 (平成 17 年) のシーチャリオットのみである。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、石崎隆之騎手が5勝で単独トップ。高橋三郎騎手、的場文男騎手が4勝で2位タイ、戸崎圭太騎手、御神本訓史騎手、森泰斗騎手が3勝で4位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「5」

調教師別の勝利数を見ると、佐藤賢二調教師が5勝で単独トップ、川島正行調教師が3勝で単独2位、岡部猛調教師、武森辰己調教師、出川克己調教師、森下淳平調教師が2勝で3位タイとなっている。

■ 4～5 枠が優勢、1 枠は不振

枠番別勝利数を見ると、4枠（10勝）が単独トップ。5枠（9勝）が単独2位、7枠（7勝）が単独3位となっている。なお、1枠（1勝）以外はいずれも4勝以上だ。また、馬番別勝利数を見ると、4番（9勝）が単独トップ。5番と6番（各6勝）が2位タイとなっている。ちなみに、未勝利の馬番は3番と16番だけである。